



埼玉県 川口市消防局  
消防長 榎本 和夫

## 埼玉県南部の消防防災を担う

川口市消防局の管内人口は約58万人、世帯数約26万世帯、管轄面積は約62km<sup>2</sup>であり、このうち市街地面積は約55km<sup>2</sup>で全体の約88%を占めています。

平成23年10月11日に鳩ヶ谷市と合併し、1消防局・2消防署・13分署の組織体制で、543名の職員で組織し、441名の消防団員とともに、安全・安心な市民生活の確立のため消防防災の任務に当たっています。(平成24年4月1日現在)

川口市は埼玉県の南端に位置し、荒川を隔てて東京に接しており、市の大部分が都心から20km圏内に含まれます。また県内では戸田・蕨・越谷・草加・さいたまの各市に接しています。

江戸時代には、徳川歴代将軍が日光東照宮に参拝する際に利用した「日光御成道」において、にっこうおなりみち 鋳物や植木を中心として幅



JR川口駅東口広場

く産業が発展し物資の集散地として栄えました。現在も、JR京浜東北線、武蔵野線、埼玉高速鉄道(SR)が市内を巡り、東北自動車道、関越・常磐自動車道を結ぶ東京外環自動車道、首都高速道路が交差する川口ジャンクションを抱える交通の要衝です。

## 消防指令システムの整備

平成24年2月1日、全地球測位システム(GPS)を活用し、救急車などの位置情報をリアルタイムで確認、最も近い車両を現場に向かわせ、災害現場までの到着時間を短縮する「高機能消防指令・情報支援システム」の運用を開始しました。

新システムの特徴として、「川口市災害時要援護者登録制度」に基づき、福祉関連部局が取りまとめた約3,000人の登録者と、約1,700人の緊急通報装置(ペンダント)の利用者の、緊急連絡先などの情報をデータベース化してシステム内に取り入れており、救急隊などの出場部隊

へ、現場到着前に支援情報として有効に活用を図るほか、大規模災害発生時においても登録情報に基づき早期の支援活動が可能となるなど、救命率の向上や災害の被害軽減を目指すものです。



高機能消防指令・情報支援システム

また、新たに、音声による通報が困難な方が、携帯電話のチャット機能を用いて文字画面で通報が出来る「Web119」を導入しました。

## 市民生活の「安全・安心」をより確かなものにする

近年の消防を取り巻く環境は、東日本大震災などに代表される自然災害の大規模化や、地震により発生した原子力発電所の事故による放射性物質の漏えいなど、予想しがたい事案も発生し、新たな対応が求められています。

このような状況の中、私たち消防職員は市民の皆様への付託に応えるために、迅速・確実な消防活動を徹底し、日夜管内の火災・救急・人命救助などの業務にあたり

と共に、「防火対象物関係者の自主的な防火管理意識の向上を図る予防行政の充実」、「市民100人に1人の救命講習受講を目指し、消防行政及び市民の双方向からの救命率の向上」



川口市マスコット「きゅぼらん」

はもとより、本災害を通じて得た課題や教訓をもとに、発災により多くの犠牲者を出さないためにも、災害時における応援・受援体制の見直しや資機材の充実などを再検討しながら、災害発生時における態勢の強化を図ってまいります。

最後に、川口市消防局は、「安全・安心な市民生活の確立」の実現に向け、さらに質の高い消防行政を目指し、職員が一丸となって創意工夫しながら、市民サービスの向上と地域の防災力の向上に努めてまいります。